

資料番号	7
------	---

令和8年9月16日
 課 名 環境県民局わたらしい生き方応援課
 担当者 課長 井上
 内 線 2733

令和7年度のエソール広島の活動状況について

1 要旨・目的

広島県女性総合センター（エソール広島）の令和7年度の活動状況について取りまとめを行い、その内容を報告する。

2 現状・背景

「わたらしい生き方応援プランひろしま」（第5次男女共同参画基本計画）に基づき、エソール広島が、性別にかかわらず多様な選択をすることができる社会の実現に向けた個人や団体の活動・交流の拠点性を高めていくために、取組を着実に実施することが重要であることから、事業の実施状況や施設の利用状況等を取りまとめ、活動の振り返りを行うことで、今後の取組の充実・強化を図ることとしている。

3 概要

（1）対象者

県民

（2）事業内容（詳細は別紙のとおり）

「わたらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、性別にかかわらず誰もがわたらしく生きることのできる社会を実現するため、次の3点を重点項目として事業を実施した。

<重点項目>

- （ア）性別にかかわらず「わたらしい生き方」を選択する意識改革
- （イ）様々な困難を抱える方への支援の充実・強化
- （ウ）性の多様性の理解促進と性的指向・性自認にかかわらず安心して暮らせる環境づくり

ア 重点項目等の主な取組

（ア）性別にかかわらず「わたらしい生き方」を選択する意識改革

- ・ ジェンダー平等の視点に立った意見の反映が進むよう、若者転出超過など、新しい切り口によるわたらしい生き方を選択するための公開講座や、新たに市町と連携し地域課題の解決について考える講座を実施した。

【男女共同参画公開講座参加者数：354人】

- ・ 性別による固定観念の解消に向け、日頃抱えている性別に関する「もやもや」を川柳の形で募集・発信するジェンダー川柳コンテストについて、協賛企業17社の広報協力を得ながら実施した。

【応募数：4,244作品（R6年度：3,747作品）】

(イ) 様々な困難を抱える方への支援の充実・強化

- ・ 家族や職場の人間関係トラブルや健康などの悩みに対し、電話相談や面接相談のほか、専門機関へつなぐ対応を行った。前年度を上回る相談が寄せられ、相談内容では「男女間や職場の人間関係など対人に関する事」などの相談が増加したほか、年代別では40代が増加した。

区 分		令和7年度	令和6年度	対前年度比
一般相談	電話相談	2,463 件	2,302 件	107.0%
	面接相談	125 件	122 件	102.5%
合 計		2,588 件	2,424 件	106.8%

- ・ 弁護士相談会を実施し、夫婦・家族の問題などの相談をつないだ。

(ウ) 性の多様性の理解促進と性的指向・性自認にかかわらず安心して暮らせる環境づくり

- ・ 性的指向、性自認に関する悩み等に対し、週1日の電話相談で対応した。相談件数は前年度から概ね横ばいで、年代別では30代からの相談が増え、3割を占めた。

区 分		令和7年度	令和6年度	対前年度比
LGBT 相談	電話相談	225 件	228 件	98.7%
	面接相談	3 件	3 件	100.0%
合 計		228 件	231 件	98.7%

- ・ 支援者による面接相談及び相談者同士が交流できるグループ相談の場を福山市で設けた。【相談会参加者（LGBT 相談）：14 人】
- ・ 性の多様性に関する理解促進について、県教育委員会等と連携し高等学校における出前授業を実施したほか、若者の身近にいる教職員を対象に、正しい知識や理解を深め、実践的な支援の方法などを学ぶ講座等を実施した。【出前授業：5 回 1,567 人】

(エ) 重点項目以外の主な取組（交流・連携）

- ・ 県や教育機関、民間団体と連携し、ジェンダーや女性活躍について取り上げた共催イベントを実施したほか、企業・団体からの研修を受託し、講師派遣を行った。
【共催事業：54 回、6,887 人（R6 年度：44 回、2,003 人）】
【研修受託：18 回、1,455 人（R6 年度：28 回、2,185 人）】
- ・ 令和7年1月にホームページの改修を行い、スマートフォンに対応したことや、ジェンダー川柳に関する特設サイトをエソール広島ホームページ内に設置したこと、研修動画等のコンテンツを充実したことにより、アクセス数は前年度と比べて大幅に増加した。
【HP アクセス数：150,781 件（R6 年度：114,547 件）】

イ エソール広島の利用状況

- 施設の団体利用や情報スペースの利用が増えたほか、外部施設を利用した企業・団体等との共催事業が増えたことなどにより、前年度に比べ利用者数が約2割増加し、利用者目標である3万人を初めて上回った。

区分	令和7年度	令和6年度	対前年度比
利用者数	34,020人	28,058人	121.2%
施設利用者数	25,007人	21,707人	115.2%
外部施設での参加者数 (出前授業等)	9,013人	6,351人	141.9%

(3) 令和7年度の実施の成果と課題

- ジェンダー川柳コンテストでは、引き続き、SNS広告や協賛企業による職域での参加呼びかけ等を行い、前年度を上回る応募があった。特に令和7年度は、男性からの応募が増えたほか、中には学校単位での団体応募もあり、取組の広がりがみられた。
- LGBT相談では、福山市への出張面接相談を実施したところ、高い満足度が得られた。また、同じ悩みを抱える方同士でつながりたいという相談者のニーズを踏まえたグループ相談の場の提供を行っており、引き続き、相談者のニーズに応じた対応が必要である。
- 企業・団体等との共催事業や施設利用が増えたことなどにより、利用者数の目標値である3万人を初めて上回った。今後も市町や関係団体と連携した活動や広報啓発をすすめるとともに、様々な機会を捉え、エソール広島の活動の認知度を向上させ、利用促進を図る必要がある。

(4) 予算（令和7年度）

86,660千円（単県）

4 今後の取組の方向性

- エソール広島の活動に対する県民の認知と更なる利用の拡大に向けては、利用者ニーズや社会環境などを踏まえた講座等のテーマや実施方法などを工夫するほか、令和8年度から実施する「地域の課題解決に向けた地域づくり講座」などにより連携・協力していく団体を広げるとともに、より効果的な情報発信を行いながら、活動の活発化につなげる
- 複雑で深刻な相談にも対応できるよう、電話及び面接の相談員のスキルアップや支援者間でのネットワークづくりに取り組む
など、エソール広島の実施する事業の見直しや充実を図っていく。

こうしたエソール広島の担う役割や機能などについては、女性団体や有識者等、幅広い方々の意見を聞きながら、今年度改定を予定している「わたらしい生き方応援プランひろしま」に反映していく。

令和7年度のエソール広島の活動状況について

（ 令和8年6月26日 ）
 わたしらしい生き方応援課

第1 エソール広島の事業の実施状況について

「わたしらしい生き方応援プランひろしま」（第5次男女共同参画基本計画）に基づき、エソール広島が、性別にかかわらず多様な選択をすることができる社会の実現に向けた個人や団体の活動・交流の拠点性を高めて行くため、次の3点を重点項目として事業を実施した。

＜重点項目＞

- 1 性別にかかわらず「わたしらしい生き方」を選択する意識改革
- 2 様々な困難を抱える方への支援の充実・強化
- 3 性の多様性の理解促進と性的指向・性自認にかかわらず安心して暮らせる環境づくり

1 性別にかかわらず「わたしらしい生き方」を選択する意識改革

（1）事業内容

- ジェンダー平等の視点に立った意見の反映が進むよう、若者転出超過など、新しい切り口によるわたしらしい生き方を選択するための公開講座等を開催したほか、新たに市町と連携し地域課題の解決について考える講座を行った。また、性別による固定観念の解消に向け、日頃抱いている性別役割に関する「もやもや」を川柳の形で募集・発信し、男女双方の意識改革を促すジェンダー川柳コンテストを実施した。

ア わたしらしい生き方を選択するための公開講座

講座名	実施日	参加者	内 容
エソール広島公開講座 「山崎ナオコーラさん 講演会～ものがたりを ジェンダーの視点でた のしむ～」	5/18	208人	メディア等の影響で関心の高まっている「源氏物語」を通して、古典についてジェンダーの視点から現代に通じる問題を考える講座を実施した。 ・理解度：98.0% ・受講者の声：「親しみやすい題材で、わかりやすかった。源氏物語に対して感じていた面白さ以外の腑に落ちないところを話していただいて、すっきりした。」など
エソール広島公開講座 「若者の転出超過とジ ェンダーを考える」	6/28	96人	若者の転出超過について、ジェンダーの視点から課題と解決策を探るとともに、若者が「広島で暮らしたい」「広島に戻りたい」と思える地域づくりについて考える公開講座を実施した。 ・理解度：95.2% ・受講者の声：「広島県に残るか考えるきっかけになった。大学や就職先を決めるときにもっと考えてみようと思った。」など

講座名	実施日	参加者	内 容
出張！エソール塾 in 東広島	8/27 9/10 9/24 10/15 10/28	17 人	東広島市と連携し、参加者同士が対話を通じて、地域や職場の身近な課題や魅力に気づき、課題解決について考えるための講座を実施した。 理解度：100.0% 受講者の声：「性別、学歴、職業の経済格差にずっと悩まされてきたため、男女共同参画財団という存在を知り、講座を受講し、女性が社会でしっかり結果を出されていることに、とても感銘を受けた。」など。
エソール広島公開講座 「男女共同参画の視点を取り入れた みんなにやさしい防災講座」	2/21 2/22	33 人	男女共同参画の視点を取り入れた防災対策・地域づくりの担い手を育成するため、地域で活躍できる防災リーダーの育成連続講座を実施した。 ・理解度：100.0% ・受講者の声：「様々な年齢の人が参加され、いろいろな考えがあり、自分の気づきにもなった。」

イ ちいと もやもや ジェンダー川柳コンテスト

講座名	内 容
○ちいと もやもや ジェンダー川柳コンテスト	「男だから」「女だから」といった思い込みや決めつけで感じた「もやもや」を川柳の形で募集し、県民投票等により共感性の高い作品を表彰する県民参加型のコンテスト。 3回目となった令和7年度は、県内企業17社の協賛のもと、企業賞の提供や広報協力を得て、職域や店舗など県民生活に近い場面で啓発を行った。 また、過去の受賞作品のパネルの貸出しやリーフレット配布を行ったほか、中学生を対象に川柳の模擬審査等を行うワークショップを実施するなど、コンテストをきっかけとした啓発活動を行った。 ・応募総数 4,244 作品、県民投票数 2,343 票 ・過去の受賞作品を活用した啓発パネル貸出 16 件（公民館など） ・多く寄せられた作品の内容 「男／女らしさ」に関する言葉や慣習に対するもやもや（57.0%） 家事育児に関する性別による固定観念への違和感（23.8%） （広報）  

(2) 振り返り

- 男女共同参画公開講座の受講者からの満足度は高く、令和7年度から新たに実施した連続講座「出張！エソール塾」では、ジェンダー格差等について考えてもらうきっかけを提供でき、受講者から「直接市長に会って話を聞く機会があってとても良かった。市政への関心も高まった。」といった感想が寄せられた。
- ジェンダー川柳コンテストでは、引き続き、SNS 広告や協賛企業による職域での参加呼びかけ等を行い、前年度を上回る応募があった。特に令和7年度は、男性からの応募が増えたほか、中には学校単位での団体応募もあり、取組の広がりがみられた。【応募数：4,244 作品（R6 年度：3,747 作品）】
中学生を対象としたワークショップの開催や川柳作品パネルの公民館等への貸し出しなど、コンテスト終了後も継続的な啓発活動につなげることができた。

2 様々な困難を抱える方への支援の充実・強化

(1) 事業内容

- 相談業務（一般相談）では、家族や職場の人間関係トラブルや将来への不安などに対し、電話相談や面接相談を行ったほか、こども家庭センターや医療機関等の専門機関へつなぐ対応を行った。令和7年度は前年度を上回る2,588件の相談が寄せられ、「男女間や職場の人間関係など対人に関する事」などの相談が増加したほか、年代別では40代が増加した。
- このほか、弁護士相談会を実施し、夫婦・家族の問題などの相談をつないだ。
- また、対人支援者には多岐にわたる相談対応のスキルが求められることから、困難を抱える方への支援の充実・強化を図るため、支援者養成に取り組んだ。
- ジェンダーに基づく暴力の背景やSNSによる性被害等をテーマとした公開講座を実施し、困難を抱える方への理解や支援の大切さなどの啓発を行った。

ア 相談業務（一般相談）※ LGBT 相談は、「3」の性の多様性についての項目で後述

(7) 相談件数

区分	電話相談※	面接相談※	計	対前年度比
令和7年度	2,463 件	125 件	2,588 件	106.8%
令和6年度	2,302 件	122 件	2,424 件	104.6%

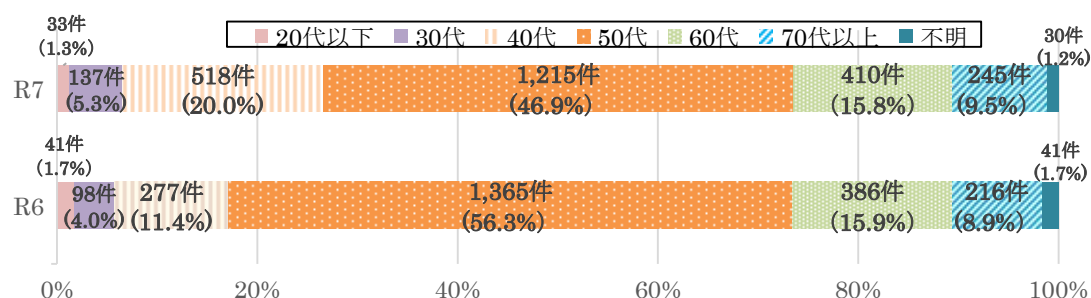
※ 電話相談は週5日（水曜日、日曜日、祝日及び年末年始を除く）、面接相談は原則、毎週金曜日実施

(1) 相談内容

相談内容	令和7年度	令和6年度	対前年度比
家族（夫婦、子供、親等）に関する事 （離婚、夫婦間のDV、子供の教育、親の世話など）	927 件 (35.8%)	812 件 (33.5%)	114.2%
男女間や職場の人間関係など対人に関する事 （男女・隣人・友人・職場等対人関係におけるトラブルなど）	615 件 (23.8%)	494 件 (20.4%)	124.5%
健康、孤独などの人生における不安や悩みに関する事 （病気を抱える辛さや不安、今後の生き方など）	917 件 (35.4%)	988 件 (40.8%)	92.8%
その他 （法律や福祉など様々な情報の収集など）	129 件 (5.0%)	130 件 (5.4%)	99.2%
計	2,588 件 (100.0%)	2,424 件 (100.0%)	106.8%

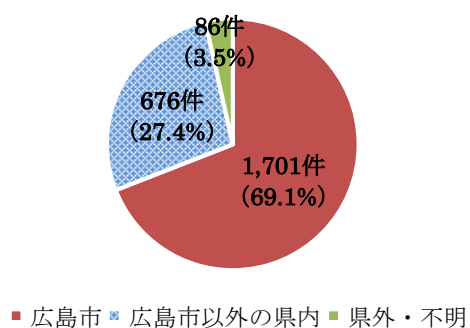
※割合は端数調整の関係で合計が一致しない場合がある。

(ウ) 相談者の年代



(エ) 相談者の地域別件数

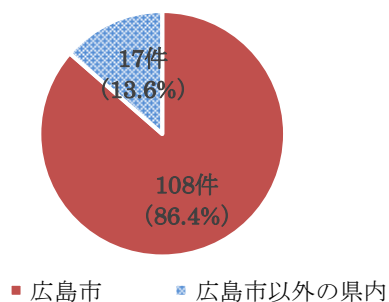
(電話)



【広島市以外の県内の件数】

呉市	24	三原市	1
尾道市	6	福山市	96
三次市	2	庄原市	5
大竹市	1	東広島市	33
廿日市市	68	安芸高田市	2
府中町	19	海田町	18
熊野町	4	坂町	4
不明	393		
計		676	

(面接)



【広島市以外の県内の件数】

呉市	1	尾道市	1
福山市	3	大竹市	1
東広島市	4	廿日市市	1
安芸高田市	1	府中町	2
熊野町	1	坂町	2
計		17	

(オ) 専門機関との連携

専門機関	令和7年度	令和6年度	主な事例
警察	1件	2件	家族との関係に関する悩み
医療機関等	14件	3件	家族との関係に関する悩み
行政機関（こども家庭センター等）	30件	28件	DV、家族に関する悩み
弁護士、家庭裁判所等	46件	36件	離婚、相続
民間施設	10件	12件	金銭問題、家族に関する悩み
計	101件	81件	

イ 弁護士相談会

相 談 会	実施日	相談者	内 容
弁護士による無料相談 (奇数月の第3金曜日に実施)	5/16 7/18 9/19 11/21 1/16	10 件	通常の電話・面接相談のみでは解決の糸口が見出せない相談に対し弁護士による面接相談を実施した。 他機関を介することなくワンストップでつなげることが可能となった。弁護士相談日までの期間は、電話相談等により随時フォローすることができた。

ウ 支援者養成

講 座 名	実施日	参加者	内 容
支援者養成講座	7/19 7/20	34 人	令和4～6年度において実施した「対人支援の技術」講座の修了者等を対象とした、より実践的にカウンセリング方法等を学ぶための講座を実施した。 ・対 象：令和4年度～6年度支援者養成講座修了生 相談業務に携わっている方 など ・理解度：100.0% ・受講者の声：「クライアントの話の見立て方や伝え方を学び、実践に移すイメージがついた。」など

エ 公開講座

講 座 名	実施日	参加者	内 容
エソール広島公開講座 「男性相談の現場から考える家族もしくは親密な関係性における暴力の背景と構図」	11/16	195 人	男性相談の現場から、ジェンダーに基づく暴力や犯罪を起こしてしまう背景とその構図について学ぶ公開講座を実施し、併せて後日配信を行った。 ・理解度：98.2% ・受講者の声：「被害者支援にばかり目が向いてしまいが、現状を改善するためには加害者支援も大切だということがよく分かった。」など
エソール広島公開講座 「SNSの落とし穴 その時、あなたは どうする？」	3/1	72 人	SNSによる性被害などの危険から身を守るために必要なことを学ぶ講座を実施した。 ・理解度：100.0% ・受講者の声：「知識としてSNSによる性被害について伝えることと同時に、こころを寄せ、関心を持って話を聴くなど、子どもの空虚感との関わり の大切さを学んだ。」など

(2) 振り返り

- 相談窓口には、様々な課題が絡み合った悩みが寄せられたり、問題が解決した後の精神的支援として専門機関からエソール広島を紹介されるケースもあるため、一人一人の状況に応じた支援者の対応力向上が必要である。
- 弁護士による面接相談は、予約の枠が全て埋まるなど相談ニーズが高いことがうかがえるため、引き続き複雑、深刻化する相談に対応する必要がある。
- 支援者養成の取組では、参加者同士の交流の機会を設けるなどの工夫により、参加者からの高い満足度が得られた。

3 性の多様性の理解促進と性的指向・性自認にかかわらず安心して暮らせる環境づくり

(1) 事業内容

- 性的指向、性自認に関する悩み等に対し、週1日の電話相談を開設し、「自分の性に違和感がある」などの相談への対応や必要に応じて医療機関等の専門機関につなぐ対応を行った。相談件数は前年度から概ね横ばいで、年代別では30代からの相談が増え、3割を占めた。
- LGBT相談会では、支援者による面接相談及び相談者同士が交流できるグループ相談の場を福山市で設けた。
- 性の多様性に関する理解促進について、県教育委員会等と連携し高等学校における出前授業を実施したほか、若者の身近にいる教職員を対象に、正しい知識や理解を深め、実践的な支援の方法などを学ぶ講座等を実施した。

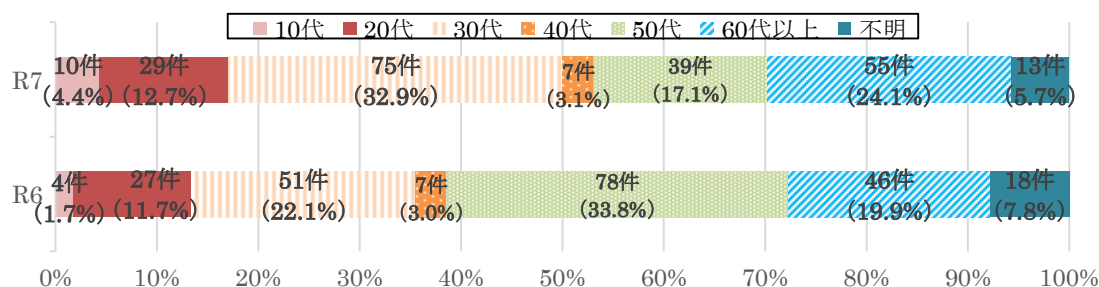
ア LGBT相談

(7) 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年度比
令和7年度	225件	3件	228件	98.7%
令和6年度	228件	3件	231件	86.2%

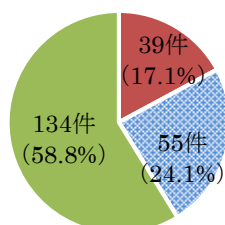
※ LGBT電話相談は平成29年10月開設（開設当初は月1回）、平成30年6月からは毎週土曜日実施

(イ) 相談者の年代



(ウ) 相談者の地域別件数

(電話・面接)



■ 広島市 ■ 広島市以外の県内 ■ 県外・不明

【広島市以外の県内の件数】

呉市	1	三原市	1
尾道市	26	福山市	4
廿日市市	1	江田島市	1
府中町	1	不明	20
計		55	

(イ) 専門機関との連携

専門機関	令和7年度	令和6年度	主な事例
医療機関	9件	4件	性別違和による医療等
行政機関	—	3件	—
民間支援団体	9件	5件	心の悩み、相談先の情報収集
計	18件	12件	

イ LGBT 相談会

相 談 会	実施日	相談者	内 容
LGBT 無料相談会	9/23 2/11	6 人 8 人	支援者による面接相談と相談者同士が交流できるグループ相談を福山市で実施した。 ・満足度：100% ・参加者の声：「相談できる人が近くにいなかったの で、心の性だけでなく生活面も相談できて楽になれた。」 「近くだったので、参加しやすかった。」など

ウ LGBT の理解促進

講 座 名	実施日	参加者	内 容
高校生向け性の多様性に関する出前授業	5/7 ～ 2/4	1,567 人	若い段階で性の多様性について正しく学ぶとともに、それぞれの個性と能力を生かして自立した生活を送るためお互いを尊重することの大切さを考える出前授業を実施した。(R6：7 回、2,295 人)
エソール広島公開講座 「知ってほしい性の多様性（実践編）」	7/31	205 人	教育機関関係者等が、性的指向や性自認に関する正しい知識や理解を深め、子供が抱える悩みに対するサポートの提供方法などを学べる公開講座を実施し、併せて後日配信を行った。 ・理解度：96.6% ・受講者の声：「多様性の理解が日常化するために、少しづつ毎年取り組みを進めていこうと思う。また、周りの小学校や中学校へもつなげていく必要を感じた。」など

(2) 振り返り

- LGBT 相談では、福山市への出張面接相談を実施したところ、高い満足度が得られた。また、同じ悩みを抱える方同士でつながりたいという相談者のニーズを踏まえたグループ相談の場の提供を行っており、引き続き、相談者のニーズに応じた対応が必要である。
- 性の多様性の理解促進では、高等学校への出前授業において、性的マイノリティの当事者でもある支援者が自らの体験を交えながら授業を行うことで、教職員からは「自分や他人の性について考え直すきっかけや、性に限らず思春期の世代で悩んでいる生徒が前向きになれる内容で、この時期の生徒に聞かせることができ大変よかった」といった声が寄せられるなど、より身近に考えることのできる機会を提供できた。

4 重点分野以外の取組等

(1) 事業内容

- 県や教育機関、民間団体と連携し、ジェンダーや女性活躍について取り上げた共催イベントを実施したほか、企業・団体からの研修を受託し、講師派遣を行った。
- また、図書等の配架・貸出や研修動画の撮影・配信、SNS 等を利用した講座・研修の情報発信等を行った。

ア 共催事業

県や民間団体と連携し、ジェンダーに関する今日的なテーマを取り上げて、講座やイベント等を行った。

区分	回数（団体数）	参加者	内容
令和7年度	54回(22団体)	6,887人	目からウロコの「日本の女性映画人」 女性人材向け研修「ひろしまリーダーズ研修」 など
令和6年度	44回(21団体)	2,003人	働き方講演会「未来を切り開く女性たちへ」 「わたしらしく夢を叶える起業応援セミナー」 など

（主な共催事業）

テーマ	実施日	参加者	内 容
私らしいリーダーを仲間と目指す！ 「ひろしまリーダーズ研修」 「ひろしまリーダーズカフェ」 	8/22 9/19 10/24 11/14 12/5	延べ 312人	女性が管理職として活躍するために必要な知識やスキル、昇進への自信を得る研修会（4回）と、研修で学んだ成果を推薦人に発表し、意見交換や組織を超えたネットワークを形成する交流会を実施。 満足度：100% ・研修受講者の声：「改めて女性の活躍とは何かについて考える事ができた」「他社との意見交換が勉強になった」など ・推薦人の声：「女性活躍が進んでいない原因、会社として取り組むべき課題になるヒントがたくさんあった」「熱意あるリーダー候補に接し、そういった人材育成が大事だと感じた」など

イ 研修受託

企業・民間団体・行政からの受託を受け、ジェンダー平等に関する講演・講座に講師を派遣し、意識啓発を行った。

区分	回数（団体数）	参加者	内 容
令和7年度	18回(10団体)	1,455人	ハラスメント研修、子どもの人権、ワークライフバランス、性の多様性など
令和6年度	28回(16団体)	2,185人	ハラスメント研修、職場における性の多様性理解促進、ジェンダーギャップなど

ウ 小・中学生を対象としたジェンダー啓発事業

令和7年度から新たに小学生とその保護者や中学生を対象に、男女共同参画社会の実現に向けた基礎知識を学ぶ場を提供した。

連携先	日 時	概 要
熊野町立熊野第三小学校	9/19	ジェンダーについての講座(エソール広島の紹介、ジェンダー平等やDEI(多様性、公平性、包摂性)について等) ・参加者数:48人
呉市立白岳小学校	9/22	ジェンダーについての講座(エソール広島の紹介、ジェンダー平等やDEIについて等) ・参加者数:85人
庄原市立東城小学校	1/30	ジェンダーについての講座(エソール広島の紹介、ジェンダー平等やDEIについて等) ・参加者数:46人
武田学園中学校	6/3	SDGsに関する探究学習の中で、「ジェンダー平等」をテーマに取り組む生徒に対して、学びの場を提供。 ・参加者数:28人
計	4校4件	(R6:実績なし)

エ 高等学校への出前授業

高校生がそれぞれの個性と能力を生かして自立した生活を送り、お互いを理解し尊重することの大切さなどについて学んでもらうため、講師を学校へ派遣し出前授業を実施した。

区分	回数	参加者	内容
令和7年度	14回	2,798人	性の多様性の理解促進(5回)※再掲 男女の相互理解等(7回) デートDV(1回) 男女共同参画社会づくり(1回)
令和6年度	13回	3,618人	性の多様性の理解促進(7回)※再掲 男女の相互理解等(6回)

オ 大学、高等学校との連携・交流

これまで利用の少なかった若年層の自主的な活動の場づくりとして、大学・高等学校との交流・連携を図った。

連携先	日 時	概 要
叡啓大学 県立広島大学 広島工業大学 広島文教大学	10/21	ちいともやもやジェンダー川柳コンテストにおいて、県内大学の学生に審査を依頼し実施。 参加者数:11人
広島県立皆実高等学校	1/13	総合的な探究の時間におけるインタビューで、「ジェンダー平等」をテーマに取り組む生徒に対して、学びの場を提供。 参加者数:3人
計	5校2件	(R6:5校6件)

カ エソールつながるトークリレー（動画配信）

男女共同参画やジェンダーについて理解を深めるため、啓発動画を作成し、YouTubeで配信することにより、広く県民への啓発を行った。

テーマ	公開期間	講師	視聴回数
上手な聴き方・伝え方 （～共感的な聴き方～・ ～勇気づける言葉がけ～）	4/1～	宮田智基さん（帝塚山学院大学大学院教授、関西カウンセリングセンター）	491回
多様な性のあり方を前提とした 学校づくり	5/31～	高畑桜さん（一般社団法人ここいろhiroshima 共同代表理事）	270回
性の多様性に関していま教育現場で必要なこと（①・②）	5/31～	河口和也さん（広島修道大学教授）	567回
社会心理学の視点からジェンダーを考える（①・②）	8/4～	森永康子さん（広島文教大学教授）	736回
川柳からジェンダーを考える （①・②）	9/1～	山田幸さん（日本放送作家協会中国四国支部監事）	295回
五・七・五でひろしまをアップデート ちいともやもやジェンダー川柳対談	3/1～	上水流久彦さん（県立広島大学教授） 山田幸さん（広島大学大学院特任助教、日本放送作家協会中国四国支部監事）	73回
計	6件	（R 6：7件）	2,432回

キ 情報発信等の状況

ホームページ上でセミナーの案内や実施内容等について発信したほか、フェイスブックやInstagramなどのSNSを利用し、施設の利用案内や各種講座・研修の情報発信を強化した。

また、女性問題、DV、人権、LGBT など男女共同参画やダイバーシティ等に関する図書等を配架、貸出しを行った。※詳細は、[参考](#)情報発信・蔵書貸出状況のとおり（P16）

（2）振り返り

- 民間団体との共催事業の実施回数は前年度より増加したほか、広島市映像文化ライブラリーなど、新たな団体と連携し事業を行った。また、人材育成セミナー（広島県労働協会）や男女共同参画をすすめる会映画祭（広島県の男女共同参画をすすめる会）など、定期的に開催している共催事業は定着しつつある。
- YouTube 動画配信は前年度より内容を拡充し、6つのテーマについて動画を公開した。人権週間等に合わせた動画公開や、講座の事前学習に活用するなどにより啓発効果を高めた。
- 令和7年1月にホームページの改修を行い、スマートフォンに対応したことや、ジェンダー川柳に関する特設サイトをエソール広島ホームページ内に設置したこと、研修動画等のコンテンツを充実したことにより、アクセス数は前年度と比べて大幅に増加した。引き続き、動画配信や市町の講座イベントの発信等、コンテンツ充実により情報発信力を強化し、認知度向上と活動の活性化を図っていく必要がある。
- 引き続き、エソール広島の活動の周知を図りながら、男女共同参画の推進に寄与する団体等との連携を図る必要がある。

第2 エソール広島の利用状況について

1 エソール広島の利用状況

(1) 利用状況

ア 利用者数

- 施設の団体利用や情報スペースの利用が増えたほか、外部施設を利用した企業・団体等との共催事業が増えたことなどにより、前年度に比べ利用者数が約2割増加し、利用者目標である3万人を初めて上回った。

区分		令和7年度 A (割合)	令和6年度 B (割合)	対前年度比 A/B
利用者数		34,020 人 (100.0%)	28,058 人 (100.0%)	121.2%
	うちオンライン参加	3,595 人	3,661 人	98.2%
内 訳	施設利用者数	25,007 人 (73.5%)	21,707 人 (77.4%)	115.2%
	うちオンライン参加	3,184 人	2,887 人	110.3%
	研修室・交流スペース利用	21,263 人	18,697 人	113.7%
	うちオンライン参加	3,184 人	2,887 人	110.3%
	情報スペース利用	3,744 人	3,010 人	124.4%
	外部施設での参加者数	9,013 人 (26.5%)	6,351 人 (22.6%)	141.9%
	うちオンライン参加	411 人	774 人	53.1%

イ 研修室及び交流スペースの稼働率

研修目的等での稼働率は91.0%と、前年度に比べて4.9ポイント上昇している。

区分	開館日数 A	研修目的等での利用日数 B	稼働率 B/A
令和7年度	355 日 ^{*1}	323 日	91.0%
令和6年度	353 日 ^{*2}	304 日	86.1%

^{*1} 令和7年度休館日：お盆（8/12～13）、年末年始（12/28～1/4）

^{*2} 令和6年度休館日：お盆（8/12～14）、年末年始（12/29～1/5）、館内清掃（3/13）

ウ 施設利用者の団体区分別の利用状況

団体区分別でみると、企業等が 13,100 人（52.4%）で最も多く、そのうち利用形態別では、講座・研修での利用が 8,092 人（61.8%）と多い。共催団体は 3,845 人で、前年度より約 5 割増加した。

区 分	令和 7 年度 〔団体別割合〕 (利用形態割合)	(利 用 形 態)				令和 6 年度	対前年 度比
		講座・研修	交流会	会議・打合せ	その他		
共催団体	3,845 人 〔15.4%〕 (100.0%)	3,780 人 (98.3%)	48 人 (1.2%)	0 人 (0.0%)	17 人 (0.4%)	2,576 人	149.3%
企業等	13,100 人 〔52.4%〕 (100.0%)	8,092 人 (61.8%)	1,232 人 (9.4%)	2,220 人 (16.9%)	1,556 人 (11.9%)	12,078 人	108.5%
行政	2,163 人 〔8.6%〕 (100.0%)	1,710 人 (79.1%)	60 人 (2.8%)	344 人 (15.9%)	49 人 (2.3%)	1,874 人	115.4%
男女共同参画 財団(主催事業)	2,155 人 〔8.6%〕 (100.0%)	1,747 人 (81.1%)	0 人 (0.0%)	96 人 (4.5%)	312 人 (14.5%)	2,169 人	99.4%
情報スパー ス利用者	3,744 人 〔15.0%〕 (100.0%)	—	—	—	3,744 人 (100.0%)	3,010 人	124.4%
合 計	25,007 人 〔100.0%〕 (100.0%)	15,329 人 (61.3%)	1,340 人 (5.4%)	2,660 人 (10.6%)	5,678 人 (22.7%)	21,707 人	115.2%

※割合は端数調整の関係で合計が一致しない場合がある。

(2) 振り返り

○ 企業・団体等との共催事業や施設利用が増えたことなどにより、利用者数の目標値である 3 万人を初めて上回った。今後も市町や関係団体と連携した活動や広報啓発をすすめるとともに、様々な機会を捉え、エソール広島の活動の認知度を向上させ、利用促進を図る必要がある。

第 3 今後の取組の方向性

- ・ エソール広島の活動に対する県民の認知と更なる利用の拡大に向けては、利用者ニーズや社会環境などを踏まえた講座等のテーマや実施方法などを工夫するほか、令和 8 年度から実施する「地域の課題解決に向けた地域づくり講座」などにより連携・協力していく団体を広げるとともに、より効果的な情報発信を行いながら、活動の活発化につなげる
 - ・ 複雑で深刻な相談にも対応できるよう、電話及び面接の相談員のスキルアップや支援者間でのネットワークづくりに取り組む
- など、エソール広島の実施する事業の見直しや充実を図っていく。

こうしたエソール広島の担う役割や機能などについては、女性団体や有識者等、幅広い方々の意見を聞きながら、今年度改定を予定している「わたらしい生き方応援プランひろしま」に反映していく。

参考 情報発信・蔵書貸出状況

1 ホームページ等

ホームページ	アクセス件数：150,781 件（前年度：114,547 件） アクセスの多いページ（HOME を除く） ①ちいともやもやジェンダー川柳コンテスト 2025 関連ページ集計（53,751 件） ②施設案内（5,966 件） ③施設利用（5,856 件） ④相談したい方（5,847 件） ⑤ちいともやもやジェンダー川柳コンテスト 2024（4,482 件） ⑥施設予約状況（3,731 件） ⑦エソール広島の概要（2,753 件） ⑧広島県 相談機関・支援団体一覧（2,422 件） ⑨ちいともやもやジェンダー川柳コンテスト 2023（1,893 件） ⑩講座情報（1,218 件）
フェイスブック	投稿回数：79 回（前年度：73 回） フォロワー数：766 人（前年度：774 人） 主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（24 件）②施設情報（19 件） ③国・県情報、施設情報（18 件）④研修・イベント情報（共催事業）（11 件）
Instagram	投稿回数：79 回（前年度：63 回） フォロワー数：317 人（前年度：271 人） 主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（23 件）②施設情報（20 件） ③国・県情報、施設情報（18 件）④研修・イベント情報（共催事業）（11 件）
ライン	投稿回数：5 回（前年度：14 回） 登録者数：76 人（前年度：76 人） 主な配信内容：①施設情報、国・県情報（各 2 件） ③研修・イベント情報（財団主催）（1 件）
メールマガジン	配信回数：38 回（情報数 206 件）（前年度：37 回（情報数 133 件）） 登録者数：1,703 人（前年度：1,542 人） 主な配信内容：①財団からの情報（63 件） ②研修・イベント情報（財団主催）（53 件） ③県内市町からの情報（31 件） ④研修・イベント情報（共催事業）（29 件）
ユーチューブ	公開本数：10 本（総登録数 49 本）（前年度公開本数：14 本） 登録者数：208 人（前年度：173 人） 視聴回数：6,393 回（前年度：6,632 回） 総再生時間：652.2 時間（前年度：662.4 時間）



2 文献情報等

区 分		保有数	貸出数	
			令和 7 年度	令和 6 年度
一般図書	男女共同参画に関する内容	3,337 冊	345 冊	300 冊
行政資料	国・都道府県作成の男女共同参画に関する調査・統計・報告書等	202 冊	（館内閲覧）	（館内閲覧）
DVD	女性の生き方を考える国内外の映画・ドキュメンタリー等	30 本	0 本	2 本